

編集後記

<編集顧問>

鈴木 秋悦
武田 佳彦
青野 敏博

<編集委員>

岡井 崇
神崎 秀陽
倉智 博久

私ごとで恐縮ですが、今年の職員健康診査ではウェスト周囲径を測定されました。世の中「メタボ」です。確かに「太りすぎ」が健康によくないことは事実ですが、逆に「やせすぎ」も健康に重大な影響があることを、特に若い女性に知っていただくことも重要かと思います。これは、ファッションモデルなどの体形をよいとする風潮の弊害かもしれません。しかし、皆様ご存知のように、ファッション界でも「やせすぎ」の弊害が問題となり、一定以上のやせたモデルはファッションショーに出演できなくなってきていることからみても、「やせすぎ」にも重大な健康上の問題があることは確かです。

若い女性の中には、「何が何でもやせたい、やせていたい」という強い志向がある方も多く、これが一因で食行動の異常（摂食障害）が起こることがあります。最近、摂食障害のある女性が増えているといわれています。これに対し、摂食をコントロールする生物学的機序も明らかにされ、摂食障害の治療薬も開発されつつあるようです。

「やせすぎ」は骨粗鬆症、月経異常など多くの健康上の問題をはらんでいます。さらに、「やせすぎ」は、本人だけではなく、今から生まれてくる子供の健康にも大きな問題を起こすこともわかってきました。やせた女性からは、低出生体重児が生まれやすいことはご存知のとおりですが、この子達には、将来、肥満、高血圧、糖尿病などの「生活習慣病が増える」という大問題があります。おそらく、母体内で栄養環境が悪い場合には、胎児はそれに適応して何とかエネルギーを体内に蓄積するようにプログラムされることが原因であると考えられています。

われわれ産婦人科医としても、若い女性の「やせすぎ」志向に警鐘を鳴らすべきかと思います。

(倉智 博久)